

船舶事故調査報告書

平成24年1月12日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 石 川 敏 行
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	平成22年4月12日 16時20分ごろ
発生場所	青森県八戸市八戸港 八戸港八太郎東防波堤灯台から真方位216° 440m付近 (概位 北緯40° 32.9′ 東経141° 30.7′)
事故調査の経過	平成22年9月24日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 ^{みほ} 美保丸、443トン 133477、有限会社美保海運 73.71m×11.20m×6.50m、鋼 ディーゼル機関、735kW、平成5年1月
乗組員等に関する情報	船長 男性 51歳 五級海技士（航海） 免許年月日 平成3年11月21日 免状交付年月日 平成18年10月3日 免状有効期間満了日 平成23年12月10日
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長ほか3人が乗り組み、大豆粕を積むため、八戸港に着棧した。 船長は、着棧後、船倉内の通風口の中に大豆粕が入るのを防ぐため、船倉内船首側の床面からの高さが約4.6mの位置に設けられていた通風口を塞ぐ作業を1人で行うこととし、ヘルメットと安全靴を着用したが、安全ベルトは装着せず、スライド式はしごを使用して作業を行っていたところ、平成22年4月12日16時20分ごろはしごから転落した。 船長は、病院に搬送されたが、重症頭部外傷により死亡した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風力 1 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期
その他の事項	本船の船倉内にある通風口は、船首側に1か所、船尾側に2か所設けられており、船尾側の2か所は、苫小牧港の出港前から塞いでいた。 一等航海士と次席一等航海士は、船倉後部のハッチカバーにシートをかぶせる作業を行っており、船長が転落した音に一等航海士が気付いた。 本船は、本事故後、積載する貨物を変更し、通風口を塞ぐ作業を行わないことにした。

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 船長の死因は、重症頭部外傷であった。 本船は八戸港の棧橋に着棧中、船長が、船倉内で高所作業を行っていた際、はしごより転落したことから、死亡したものと考えられるが、転落に至った状況を明らかにすることはできなかった。 本船は、船長が、安全ベルトを使用し、又は看視員を配置していれば、本事故の発生を回避できた可能性があると考えられる。
原因	本事故は、本船が八戸港の棧橋に着棧中、船長が、船倉内で高所作業を行っていた際、はしごから転落したため、発生したものと考えられる。	
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・高所作業を行う際は、安全ベルトを使用すること、及び看視員を配置すること。	